

聴覚障害者及び視覚障害者のための大学

筑波技術大学ニュース

第 37 号

発行日：2016年 7 月

www.tsukuba-tech.ac.jp



国立大学法人

筑波技術大学



筑波技術大学では、筑波技術大学ニュースのメール配信を行っております。ご希望の方は、件名を「筑波技術大学メール配信希望」、本文に、「団体名(個人名)」をご記入の上、筑波技術大学総務課企画・広報係 (kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp) までメールにてご連絡ください。



● 平成28年度 学長あいさつ



筑波技術大学は、「眼や耳からの情報取得に制限がある学生が、バリアのない教育環境で思う存分勉強し、持っている能力を開花させ、より良い社会自立を果たしてほしい。リーダーとして社会に参画・貢献してほしい。」これらの願いを実現するために、我が国で唯一の聴覚障害者と視覚障害者のための高等教育機関として、29年前に創られた国立大学です。

開学以来、教育の質の向上、学生支援の充実に努め、情報保障や教育方法の研究開発を行い、障害のある学生が大学教育を確実に履修できる環境を整備してきました。その結果、卒業生においては毎年きわめて高い就職率を達成しており、社会参画・貢献できる人材育成や障害者教育の向上において大いに成果を上げてきました。

今年度は、第3期中期目標・中期計画期間の初年度であり、アクティブ・ラーニングの推進、グローバル化への対応、社会人の「学び直し」のための編入試験の拡大など、より一層教育内容の充実を図ります。大学院「情報アクセシビリティ専攻」も軌道に乗り、「情報保障学」という新しい学問分野の成長も期待されています。また、全国の障害者高等教育の共同利用拠点としての他大学等の障害学生への支援機能や共同ネットワーク構築など、着実に計画の実現を推進していきます。

昨年度、東西医学統合医療センター西棟が完成し、「リハビリテーション科」、「あん摩・マッサージ・指圧外来」がこれまで以上に充実したことで、臨床教育や診療・研究のさらなるレベルアップも期待できます。

平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」により、障害者に対する合理的配慮や支援の取り組みを具体的にどのように実施すべきかなどについて、全国の教育機関・企業等において幅広い観点で議論されています。筑波技術大学においては、今後さらに多様化する社会的ニーズに対応できるよう、教育力、研究力を高め、障害者支援のネットワークのさらなる充実を図り、「社会と障害者から頼りにされる大学」を目指して、より一層発展させていきたいと考えております。

国立大学法人 筑波技術大学長
大越 教夫

● 平成27年度 学位記授与式を挙



3月18日 金曜日、天久保キャンパス講堂において、平成27年度筑波技術大学学位記授与式を挙行いたしました。今回、学位記を授与されたのは、産業技術学部43名、保健科学部28名、合わせて71名の学部卒業生及び大学院修士課程技術科学研究科産業技術学専攻1名、同研究科保健科学専攻4名、同研究科情報アクセシビリティ専攻合わせて5名の修了生でした。

学位記授与式では、大越学長から卒業生及び修了生一人ひとりに学位記が手渡された後、「私は、社会に出て役に立ったことを挙げよと言われたら、「学び続けること」と「努力」を挙げます。社会で生きていくためには、「学び続けること」が重要です。次に「努力」とは、目標を掲げ、そこに到達するために邁進することであり、「学び続けること」よりもっと積極的なものであると考えます。しかし、

時には巡ってきたチャンスを生かす「偶然」の要素も重要だと思えます。スタンフォード大学のジョン・クランブルツ教授は、「計画された偶発性理論 (Planned happenstance theory)」というキャリア理論を提唱しています。皆さんも是非、この理論を自分の行動パターンに取り入れ、着実にキャリアを積んで下さい。」と学長の式辞がありました。

引き続き、つくば市福祉部次長の小田倉時雄氏、一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏及び元筑波技術短期大学長の西條一止氏からそれぞれ祝辞がありました。これに対し、卒業生及び修了生を代表して、それぞれ謝辞が述べられました。

(総務課総務係)



● 平成28年度入学式を挙行政



4月5日 火曜日、天久保キャンパス講堂において、平成28年度筑波技術大学入学式を挙行政いたしました。

入学式では、学部90名(産業技術学部49名、保健科学部41名)及び大学院技術科学研究科10名(産業技術学専攻2名、保健科学専攻4名、情報アクセシビリティ専攻4名)の入学が許可されました。

続いて、大越学長から「大学は、「生涯にわたって学び続ける力と主体的に考える力を持った人材を育成する場」です。これからの大学生活を送る上で、皆さんはどのような力を身につければよいのでしょうか。

一般に、産業界が求める理想の人物像としては、

- コミュニケーション能力に長け、
- 困難に出会っても、やり遂げる知力・胆力があり、
- 新しいことに挑戦するチャレンジ精神に富み、

- 集団を率いるリーダーシップを持ち、
 - チームワークを重んじ、協調性のある人物、
- とされています。皆さんは、是非、これからの学生生活の中で、これら5つの要素、すなわち「コミュニケーション能力」、「やり遂げる知力・胆力」、「チャレンジ精神」、「リーダーシップ」、「協調性」を十分に養ってください。」などの式辞の後、両学部入学生代表による入学宣誓がありました。

引き続き、来賓のつくば市副市長の細田市郎氏、一般財団法人全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏、元筑波技術短期大学長の西條一止氏からそれぞれ祝辞がありました。

(総務課総務係)



● 学生の活躍

「つくばスポーツ大賞 2015 グランプリ」を受賞

保健科学部保健学科鍼灸学専攻3年(当時)の中澤隆さんが、3月6日 日曜日にイオンモールつくばにて開催された「つくばスポーツ大賞 2015」の授賞式において、グランプリ-つくば市長賞-を受賞しました。受賞を記念し、つくば市副市長の岡田久司氏より賞状とトロフィーが贈られました。中澤さんは「自分がグランプリに選ばれるとは思っていませんでしたので驚いています。支えてくれる方々のお蔭なので感謝したい。2020年に開催される東京パラオリンピックで金メダル獲得をめざし頑張っていきたい。」と謝辞を述べられました。写真は、つくば市の皆さんの声援を受け、更なる活躍を誓う中澤さんです。

(総務課企画・広報係)



授賞式の様子

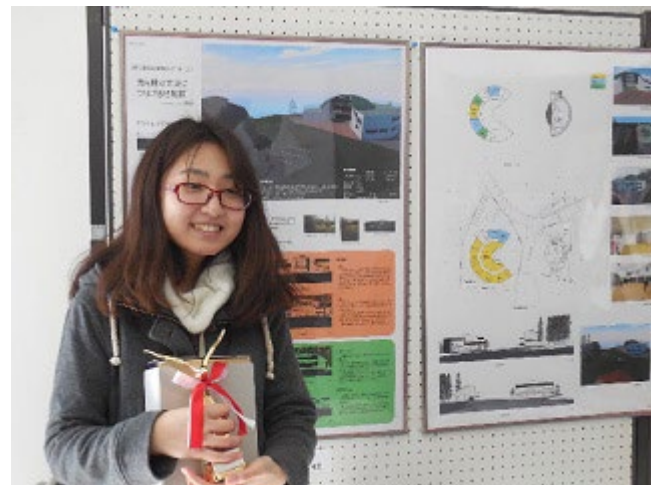
茨城学生建築展で笠間市長賞を受賞

「第二回茨城学生建築展」の審査において、産業技術学部総合デザイン学科環境デザイン学領域3年(当時)の日影館美樹さんが、「海を眺め未来につなげる幼稚園」の設計演習課題作品で笠間市長賞を受賞しました。

茨城県内の建築関連科目を有する大学、専門学校等が参加するこの建築展では、学生らしい発想力とデザイン性そして新しい考えを提案する作品が評価されます。教育・福祉施設を大切に考える山口笠間市長からは「その新たな設計内容とデザイン表現に感動しました。」とのお言葉をいただきました。

笠間市長賞受賞に際して、日影館さんは、「今回受賞した幼稚園とデイサービスの複合建築は、環境デザインや教職の講義・教師塾などで学んできたものや経験をすべて注ぎ込んだ作品であり、新しい課題を考えさせられた作品でもあります。この私の最大限の努力を笠間市長賞に選んでいただき、これからも成長できるように感じておりとても嬉しく思います。」と語ってくれました。

(産業技術学部総合デザイン学科 長島 一道)



日影館さんと作品のパネル

理学療法学専攻4年次の国家試験受験者が全員合格

3月29日 火曜日に第51回理学療法士国家試験の合格発表が行われ、本学から受験した4年次(当時)の学生は全員合格しました。

理学療法学専攻では、長期の実習の他、近年の国家試験難易度上昇を鑑み、2年次の総合理学療法演習1から対策を始めていました。過去問の模試及び解説を取り入れた総合的な授業です。さらに4年生では、学内及び学外の模試も頻回に実施され、試験の後は必ず自己採点し不正解だった箇所や理解が浅い分野の復習を促しました。今回の全国

平均の合格率は74.1%で(現役学生は82%)、柔道整復師の国家試験合格率は80.8%、はり師は90.6%、きゅう師90.8%(いずれも全国平均)でしたので、専攻学生及び教職員一体での努力の成果でした。合格した皆さんの今後のご活躍が期待されます。

(保健科学部保健学科理学療法学専攻 三浦 美佐)

● 電子情報通信学会・第83回福祉情報工学研究会を開催

3月4日 金曜日、5日 土曜日 春日キャンパス講堂にて、電子情報通信学会・第83回福祉情報工学研究会(後援:筑波技術大学)が開催されました。

本研究会は、障害者や高齢者の情報・通信に関するさまざまな科学技術について、多くの研究者や開発者及びその技術を利用する方々が集まって発表や討論をしています。本学が共催・後援として協賛した第62回(2012年3月)から4回目となる第83回は、「聴覚・視覚障害者支援、一般」のテーマで開催されました。25件の発表、延べ127名の参加があり、活発な討論が行われました。

本学学生では、産業技術学部産業情報学科4年(当時)の加藤さんが「環境音とコンテキスト理解を支援するシステム ～聴覚障害児のための環境音学習システム～」というテーマで発表をしました。また、産業情報学科4年(当時)の大西諒くん、情報システム学科3年(当時)の富永日出子さんが受付担当として参加者の対応にあたりました。互いのコミュニケーション特性の違いにとまどいながらも、協力して受付の仕事をしてくれました。研究分野の特徴から障害者の参加が多いため、文字通訳による情報保障と視覚障害者への移動支援が行われました。こうした学術分野

への障害者の積極的な参加をうながすため、本学の教員もサポートを行っております。

(産業技術学部産業情報学科 若月 大輔、塩野目 剛亮、
障害者高等教育研究支援センター 宮城 愛美)



発表する加藤さん

● 東西医学統合医療センター 平成27年度第2回医療安全研修会を開催

3月9日 水曜日、本学東西医学統合医療センターでは平成27年度で2回目となる医療安全研修会を開催しました。今回は、昨年度の研修会で講義を受けた医療危険予知トレーニング(KYT)を当センタースタッフで実践しました。当日、各部署から計28名が参加しました。はじめに理学療法士の松井康先生が模擬患者に対してリハビリテーションを行い、参加者は起こりうる危機を想定しながら注意深く観察しました。その後、グループで想定された危険を列挙、整理して、報告を行いました。各グループから最も多く指摘された内容は、「患者への声かけ」でした。また、他部署のスタッフから指摘された内容は普段、気がつかなかったことも多く、大変有意義な研修会になりました。今後も、センター一丸となって医療事故の抑制に努め、最良の医療を提供できるよう頑張っていきたいと思っております。

(東西医学統合医療センター 櫻庭 陽)



模擬リハビリテーションの様子



グループワークの様子

● 「障害補償と大学の合理的配慮」に係る講演会を開催

3月9日 水曜日、天久保キャンパス大会議室において、障害者高等教育研究支援センター主催による「障害補償と大学の合理的配慮」に係る講演会が行われました。

講演者として本学元学長の大沼直紀氏をお招きし、バリアフリー・コンフリクトなどの新しい概念を盛り込んだ有益な2時間の講義となりました。

本学教職員や学生だけでなく、一般の方々にもお越しいただき、約45名の参加がありました。

(総務課企画・広報係)



講演された大沼先生

● 「語学教育のイコールアクセスを考える」を開催

2月20日 土曜日、天久保キャンパス大会議室において、全国の大学教職員、聴覚障害学生の語学指導担当者及び支援担当者を対象とした研修会「語学教育のイコールアクセスを考える」を開催しました。障害者高等教育研究支援センターは、文部科学省より教育関係共同利用拠点「障害者高等教育拠点」として認定を受けております。本研修会は、本事業で取り組んでいる「語学教育に関するアカデミック・アドバイスの提供」の一環として開催したものです。当日は、全国の大学や特別支援学校等30機関から38名の参加がありました。

本研修会では、本学及び一般大学で学ぶ聴覚障害学生の英語やフランス語の指導方法、語学授業の支援方法に関する実践事例について発表がありました。また、そのほか情

報提供として、英検・TOEICなどの技能試験における聴覚障害者の特別措置についての解説がなされました。発表者全員によるパネルディスカッションでは、聴覚障害学生の語学授業において課題とされる発音の指導や、聞こえる学生と同じ授業を受けた際の評価方法などをトピックとして取りあげ、フロアも交えて教員・職員それぞれの立場からの活発な意見交換がなされました。これらのプログラムをとおして、聴覚障害学生への語学指導・支援のあり方について、広く情報共有を図ることができ、非常に有意義な機会となりました。

(障害者高等教育研究支援センター
「障害者高等教育拠点」事業事務局)



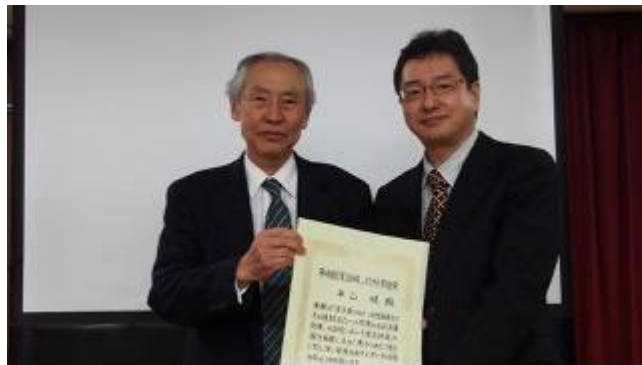
パネルディスカッションの様子

● 平山暁教授が「漢方研究」イスクラ奨励賞を受賞

東西医学統合医療センターの平山 暁教授が第 40 回の「漢方研究」イスクラ奨励賞を受賞しました。

受賞大賞となった研究題目は「漢方薬の NO・活性酸素及びその連鎖反応への作用と血流改善効果」です。平山教授は当センターの漢方内科を担当され、研究では長年にわたり、活性酸素を中心に研究を進めています。今回の研究では、身体の中で様々な生理機能を担っている NO (一酸化窒素) や活性酸素の変化から、漢方薬の効果について解明します。今後の発展に期待したいと思います。

(東西医学統合医療センター 櫻庭 陽)



受賞された平山教授(右)

● 張建偉助教が情報処理学会第 77 回全国大会大会優秀賞を受賞

産業情報学科の張 建偉 助教が研究論文発表「クラウドソーシングによる聴覚障害者の情報保障手法の検討」で、情報処理学会第 77 回全国大会 (2015 年 3 月開催) 大会優秀賞を受賞しました。

(社)情報処理学会は、1960 年に設立され、情報処理の学術・技術の進歩発展と普及啓蒙を目指す当該分野における最大の学会です。全国大会優秀賞は、全国大会での優れた発表者に対して授与される賞で、第 77 回全国大会では、約 1,400 件の発表から 10 名が選定されました。受賞者の張 助教には、第 78 回全国大会 (2016 年 3 月開催) の席上で、賞状、賞牌、副賞が渡されました。

受賞論文：張建偉、白石優旗、櫻井恵美、森嶋厚行、「クラウドソーシングによる聴覚障害者の情報保障手法の検討」

(産業技術学部 平賀 瑠美)



受賞された張助教

● 部局を越えたテーマ別教育研究推進のためのディスカッションを実施

3月10日 木曜日、春日キャンパス講堂において、学術・社会貢献推進委員会事業として「平成 27 年度部局を越えたテーマ別教育研究推進のためのディスカッション」を開催しました。この会は、教員各位の教育研究活動の高度化ならびに新たな教育活動の創出を目的とし、各部局の専門分野の方に話題提供を頂きディスカッションの場を提供するものです。平成 25 年度に始まり 3 回目の実施となる今回は、本学の中期目標・中期計画にも含まれている全学共通のトピックの一つである「聴覚・視覚障害学生のための安全管理と環境整備」をテーマとしました。本学の 5 名の教職員をパネリストとして、次の話題提供がありました。

1. 「キャンパス整備の指針について～ユニバーサルデザインと安全・安心デザインの視点から～」山脇博紀 (産業技術学部総合デザイン学科・准教授)

2. 「聴覚障害学生のための安全管理と環境整備～音と光の警報設備に関する調査から～」伊藤三千代 (産業技術学

部総合デザイン学科・准教授)

3. 「聴覚・視覚障害学生のための安全管理と環境整備～春日キャンパス体育館～」天野和彦 (障害者高等教育研究支援センター・准教授)

4. 「聴覚・視覚障害学生のための安全管理と環境整備」関田 巖 (施設環境防災委員長 / 保健科学部情報システム学科・教授)

5. 「みんなのみらいづくり-キャンパスマスタープラン 2015- 既に実施した事項」板谷 聡 (財務課・専門員)

その後、パネリストの 5 名の教職員と約 30 名の参加者との間でディスカッションが行われました。短時間ではありましたが、学長を交えた活発な議論が行われ、本学の安全管理と環境整備について情報や課題の共有がなされました。

(学術・社会貢献推進委員会
若月 大輔、新井 達也、宮城 愛美)

● 第 57 回科学技術週間で春日キャンパスを一般公開

4月22日 金曜日、第57回科学技術週間行事で春日キャンパスを一般公開しました。

27名の方にお越しいただき、触って理解する教材・施設内に設けられた触覚的な手がかり・コンピュータを使うための音声合成ソフトウェア・体育館の設備など、普段目にする事のない学習環境や支援機器をご体験いただきました。

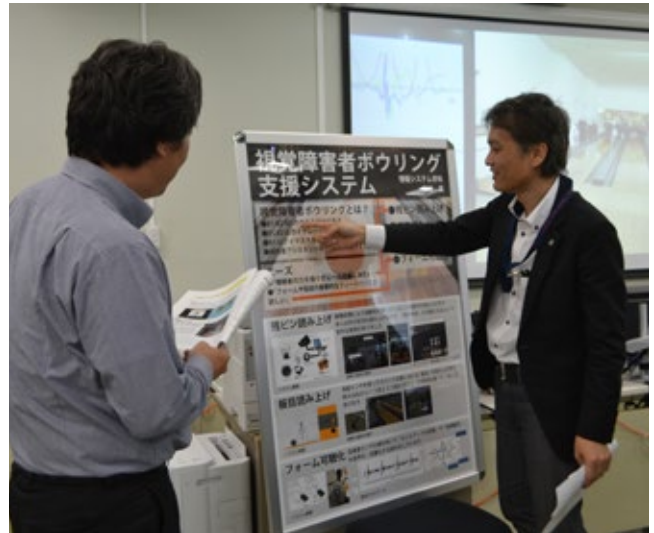
参加者からは、「貴重な体験になった」「視覚障害について理解できた」などの声が聞かれました。



きゅう術体験の様子

来年度も同様に公開する予定です。皆様のお越しをお待ちしております。

(総務課企画・広報係)



研究内容の展示説明の様子

● 全日本スーパーフォーミュラ選手権が開幕

本学がスポンサーシップ契約をしているKCMGのフォーミュラカーが全日本スーパーフォーミュラ選手権の開幕戦(三重県鈴鹿サーキット)に出走しました。スーパーフォーミュラとは日本の自動車レースの最高峰で、日本版F1とも言われますが、F1を凌ぐほどのスピードを持ったレーシングカーです。

車体側面(左右2箇所)にコミュニケーションマークと大学名が入っています。

現在レーシングチームKCMGと本学とは技術協力関係にあり、今後も学生を含めた交流活動などを行っていく予定です。自動車技術は日本を代表する基幹産業の一つであ

り、本学から多くの卒業生が自動車メーカーや関連企業に技術者として就職しているため、この活動を通じてクルマやモータースポーツに興味を持つきっかけになればと思います。レース結果は13位完走(出走19台)でした。今シーズンは九州から東北にいたる日本各地のサーキットで残り6戦開催予定ですので、サーキットへ行く機会があれば、是非応援をお願いします。本学のOBや在学生、これからエンジニアを目指そうという子供たちに夢と希望、そしてテクノロジーを学ぶためのモチベーションを与えるためにも今後の活躍を期待しています。

(産業技術学部産業情報学科 下笠 賢二)



本学のステッカーが貼られている車体



KCMGのマシン

● オープンキャンパスのご案内

筑波技術大学では、両キャンパスを公開し、授業の体験や施設見学、個別相談などをさせていただきます。受験希望者はもとより、保護者及び学校関係者の方々のご参加をお待ちしております。

●産業技術学部

・会場 筑波技術大学天久保キャンパス
(つくば市天久保 4-3-15)
・日時 8月6日 土曜日 10:00-16:00
・申し込み・お問い合わせ先
〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15
筑波技術大学 聴覚障害系支援課 教務係
TEL:029-858-9329
FAX:029-858-9335
E-mail: opencampus[at]ad.tsukuba-tech.ac.jp
※ [at] は@です。

オープンキャンパスのページは
こちらのQRコードを読み取って
アクセスしてください



●保健科学部

・会場 筑波技術大学春日キャンパス
(つくば市春日 4-12-7)
・日時 7月24日 日曜日 10:00-17:00
8月21日 日曜日 10:00-17:00
・申し込み・お問い合わせ先
〒305-8521 茨城県つくば市春日 4-12-7
筑波技術大学 視覚障害系支援課 教務係
電話:029-858-9507 ~ 9509
FAX:029-858-9517

オープンキャンパスのページは
こちらのQRコードを読み取って
アクセスしてください



● 関東鉄道の路線バスに広告を掲出しました

つくば市近郊を走る関東鉄道の路線バスの後部看板に本学の広告を掲出しました。

両キャンパスやつくば市の風景、つくば市イメージキャラクターの「フックン船長」がドット絵で描かれています。是非探してみてください。

(広報室)



● 平成28年度筑波技術大学公開講座について

筑波技術大学では、聴覚や視覚に障害のある人たちのための教育研究を行っています。その知識やノウハウを学外の方々にも知っていただけるように、毎年公開講座を実施しています。

平成28年度は、13講座を計画しています。生涯学習として何かを始めたい方、また、仕事に役立つ知識や技能を学びたい方などにお勧めの講座です。

詳しくは別紙の公開講座一覧をご覧ください。

(総務課企画・広報係)

筑波技術大学ニュース 第37号 発行 筑波技術大学 広報室 編集 筑波技術大学 総務課
発行日 平成28(2016)年7月 〒305-8520 茨城県つくば市天久保4丁目3-15 URL <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>
E-Mail kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp Tel 029-858-9311 Fax 029-858-9312